竹田キャンパス通信

前田亮二 美術科非常勤講師

竹田キャンパスも発足して早4年目が終わります。ゆっくりとではありますが、年々行事ごとも増え、地域の方たちとのふれあいも多くなってきております。夏と冬の交流会ではたくさんの学生たちが訪れ、その賑わいにより、廃校以前の学校といった雰囲気を懐かしむ方々もおられます。また、以前ここに来た学生も卒業後に交流会に現れたりと、なんだか嬉しく思います。

今年度も、夏のゼミ合宿、交流会、ワークショップ、アートイベント等、様々な学生たちが訪れました。勉強する者、遊ぶ者、のんびりする者、用途はいろいろですが、みんな元気です!! そして、それが一番大事な事だと思います。その元気な姿を見ていると、こちらもなんだか元気になってくるのでおもしろいもんです。廃校になった学校で、みんなと一緒に宿泊する、それだけでもなんだかワクワクすると思いませんか。そんな経験をしながら、感性を磨く事が学生生活だと私は思います。

交通の便等、なかなか不便な面もあり、ちょくちょく訪れるのは難しいかもしれませんが、これからもたくさんの学生が、学びに、遊びにきてくれればと思います。まだまだ利用方法も模索中な面もありますが、学生たちの魅力的な場所として、大きな存在になっていければと考えております。

〈今年度の活動内容〉

竹田キャンパスは、廃校となっていた下竹田小学校を利用した創作活動の場です。本学で染色を指導している非常勤の前田亮二講師が常駐し制作活動を行う傍ら、地域と密着したアートイベントを企画・実施しています。今年度は次の活動を行いました。

◎ワークショップ(エコバッグ作り・キャンドル作り・陶芸・染色・似顔絵・風鈴作り・Tシャツ制作・落書きパネル・アクセサリー作り)◎作品展示販売◎地域意見交換会◎宿泊合宿◎地域交流会◎施設案内◎制作指導など

サービスラーニング報告

「大学で学んだことを地域で活かし、地域で活動することで学びの意義を知る」ことを目的としたサービスラーニング。"単なるボランティア"では終わらない、自主性・論理性・協調性のある"社会人力"を育成するプログラムを組んでいます。今回は、サービスラーニングに参加した学生の感想をお知らせします。

竹田まちなか情報発信事業について

竹田市とは5年前から、サービスラーニングで深い交流を行ってきました。活動内容は、主に竹田のまちなかで行われるイベントの手伝いやボランティア活動をして、Facebookやホームページで情報発信することです。例えば竹楽。竹灯篭の灯りでまちなかは幻想的な世界に包まれます。竹楽は里山保全の一環としても行われており、綺麗なだけではなく環境のことも考えたイベントです。私たちは竹灯篭を並べる手伝いをし、地元の方々の思いや活動を発信しました。

これまでの活動で課題として挙げられるのは「幅広い世代の人と交流すること」です。これからはもっとまちなかの人達の声を聞き、年代の垣根を越えて活動を行っていくことが必要だと感じます。

(情報コミュニケーション学科 三浦楓・西村優里佳)

府内学生ECOフェスタ2013

私は、1年の時から府内学生エコフェスタに関わってきました。このイベントは、平成22年から大分市環境対策課などにより、6月にエコキャンペーンイベントとして府内五番街で開催されています。今年は、私たちが実行委員長として行いました。準備は3月から始まり、商店街の方々との話し合いを重ね、市役所へ企画書を提出したり、警察へ道路利用許可を得たり、近隣のお店に協力をお願いしました。1年の時は、自分たちで考えるというより先輩方の指示で活動していましたが、2年になり自分たちが主体となって動くことで、普段は経験することのない多くの事を学びました。街の活性化につながるよう、これからも、後輩から後輩へ、と続けていってほしいです。

(情報コミュニケーション学科 阿部美月)

清正公二十三夜祭

毎年7月23日に加藤清正を偲んで行われる鶴崎二十三夜祭。今年度も、芸文短大から集まった約40名のスタッフで活動を行いました。ステージ企画等、新しい取り組みがはじまったことにより、本番まで苦労することが多々ありましたが、自分たちの役割をしっかりと果たし、当日は大成功に終りました。地域の方たちからもあたたかい言葉をかけてもらうことが多く、私たちの活動が評価してもらえていることを感じました。これからもこのような活動が続いてほしいし、来年はさらにより良いものになっていることを期待したいです。

(情報コミュニケーション学科 工藤彩加)

Our volunteer activity

私たちは、アメリカと大分でボランティア活動に参加しました。アメリカでは、ホームレスの方たちに食事や寝る場所を提供するボランティアのお手伝いをしました。最初はとても不安でしたが、ボランティアの方たちが優しくて安心しました。そしてホームレスの方たちも、想像していた印象とは全く違い、明るく元気で驚きました。大分では「大分国際車いすマラソン」に参加する外国人選手の通訳やお手伝いをする団体Can-doのお手伝いをしました。英語圏の選手だけではなく、色んな国の選手たちと関わる機会も多くありました。そこで、自分たちが全く話すことができなくても身振り手振りでコミュニケーションはとれることを実感しました。二つのボランティアを通して、活動に参加して何かに貢献するだけではなく、人との関わりで自分たちにとって大きなことを学びました。また、私たちは外国と関わるボランティアだけでなく、日本での活動についても目を向けて活動していきたいと思います。(国際文化学科 河野小雪紀・出口英)

学内ギャラリー

2013年11月 2014年2月

本学 美術科の学生による作品を展示。学内ギャラリーは、午前9時から午後6時まで一般公開しています。学外からお越しの際は、大学事務局にお声掛けください。

1×4人展
2013年11月26日~12月3日

美術専攻2年
西嶋朋霞、橋本史帆
デザイン専攻2年
大谷尚子さん
徳原佳乃子さん

王子と運命の果実展
2013年12月4日~12月11日

デザイン専攻2年
徳久ひかる、西田あゆみ
平内里奈、宮本珠美

イラストサークルコレクション
2013年12月12日~12月20日

イラストサークル

変化
2014年1月7日~1月15日

美術専攻2年
河原真子

浦丸真太郎展
2014年1月18日~23日

美術専攻2年
浦丸真太郎

ファフミ展
2014年1月27日~2月2日

デザイン専攻1年
松本江里加、仲戸萌

学友会情報

日々是精進

日頃の頑張りが、賞の受賞や商品化など結果に繋がった学生や卒業生たち。今年度の活躍を一部、ご紹介します。

◉【美術科】
●「街なかにぎわいプラン」チラシデザイン採用／西本美穂●「フォーラスTシャツコンテスト」グランプリ／池永舞●「焼肉のたれラベル」デザイン採用／丸山愛●「赤い羽根 寄付金付きボールペン」デザイン採用／赤い羽根応援プロジェクトメンバー●「パッケージデザインコンベンション」特別賞受賞／丸山愛●「自動車税納期内納付啓発ポスター」最優秀賞／首藤優佳●「オペラトマト」ロゴ&ラベルデザイン採用／田井啓介

◉【音楽科】
●「別府アルゲリッチ音楽祭」出演／齋藤芙友子、江嶋昭汰、上村梨世、小松あすみ、坂本黎子、甲斐田柳子、坂本董、井上貴裕、池田香、佐藤蘭●「第7回九州新人演奏会」出演／吉元優喜乃●「読売新聞主催「第83回新人演奏会」出演／池邉秀紀、坂口芙奈●「第67回全日本学生音楽コンクール」2位／齋藤芙友子、須山恵理香、入選／藤延平●「第62回南日本音楽コンクール」入選／吉元優喜乃●「第1回九州新聞社ピアノコンクール」予選入賞／姫野華奈、古賀奈津美、樋野涼加●「ヴェルデ音楽コンクール」アンサンブル賞／佐藤蘭、坂本董、小松あすみ●「宮日音楽コンクール」入選／大上菜里、小渕真実●「瀧廉太郎記念コンクール」作曲部門1位／山田もみじ●「第41回大分県音楽コンクールピアノ部門」1位／朝長真矢●「第23回日本クラシック音楽コンクール全国大会ピアノ部門」5位／朝長真矢●「中津An die Musik」3位／岸本哲弥、奨励賞／今野俊郎、菅野佑実子●「ショパン国際ピアノコンクールin Asia」奨励賞／菅野佑実子

◉【国際総合学科(国際文化学科)】
「2014ミス日本」九州代表／近藤祐加

◉【情報コミュニケーション学科】
●「JFN学生ラジオCMコンテスト」入賞／工藤明日香●「街なかにぎわいプラン公開プレゼン」優秀賞&TV局開局／おおいた街中TV制作委員会●「おおいた教育の日エッセー」優秀賞受賞／工藤明日香●「ピアヘルパー資格筆記試験」合格／受験希望者全員

表紙の顔

本広報誌の表紙モデルは、各学科から"頑張っている学生"にスポットをあて撮影をしています。今回は、美術科デザインコース専攻ビジュアルデザインコース2年の宮本珠美さんと盛満まいかさんに登場して頂き、大分県立芸術会館にて開催した「第52回 卒業・修了制作展」会場内で撮影を行いました。2人はそれぞれ、デザイン事務所とジュエリー関連の企業に内定が決まり、春から社会人としての第一歩を踏み出します。

学長コラム

会話の勧め

中山 欽吾

似顔絵:学長秘書 佐々木優季

平成26年を迎えたと思っていたら、卒業や専攻科修了を迎える皆さんにとっては、卒業(修了)まであとわずかです。また一年生は、進級への抱負に胸を膨らませていることでしょう。年が改まるということは自分の歳もこつこつとることを意味していますので、この機会に、自分自身を真摯に見つめ直し、新たな年への抱負を持つことがとても大切です。

大学を取り巻く環境は、時代の動きに連動して年々少しずつ変わっていきます。消費税が上がる一方で、反対にアベノミクスで景気がよくなり、所得が上がるとか、色々な情報が溢れています。一方では、大学入学年齢の人口減少が、入学生数に影響を及ぼすかもしれません。

ですが、日常社会で共存する人同士の関係、つまり人と人との交わりは変わらないのでは、と思うでしょう。「エッそれも変わる?」そうです。それが変わってきているのです。しかもあまり変わってほしくない方向に。

最近、いじめによる自殺などの不幸な事件が増えていると言われています。その原因は、日常の会話不足が発端になっていることが多いようです。私は、携帯電話を通じた"文字を通して行われる会話"が原因の一つではないかと疑っています。会話とは自分の意志を人に示すだけではなく、相互が顔を見合ったりしながら感情も交えたやりとりをすることで、その人の本音を理解することができるのです。同じような問題は、ツイッターなどの会員制交流サイトでも起こっています。意見を言ったら、滅茶苦茶な言葉で中傷されたり罵倒されたりする「炎上」です。意見を交わすのは民主主義の原則です。でも匿名性を利用して無責任な発言をするのは群集心理もあるでしょうが、どこか異常です。

皆さんはどう考えますか? 携帯に頼りすぎてはいませんか。一度、自分自身の会話がどうなのか、見直してみてはいかがでしょうか。